

グローバル時代における
ICT政策に関するタスクフォース
合同ヒアリング説明資料

2010年11月9日

日本電信電話株式会社
東日本電信電話株式会社
西日本電信電話株式会社

ICT利活用/ブロードバンドの普及促進に向けて

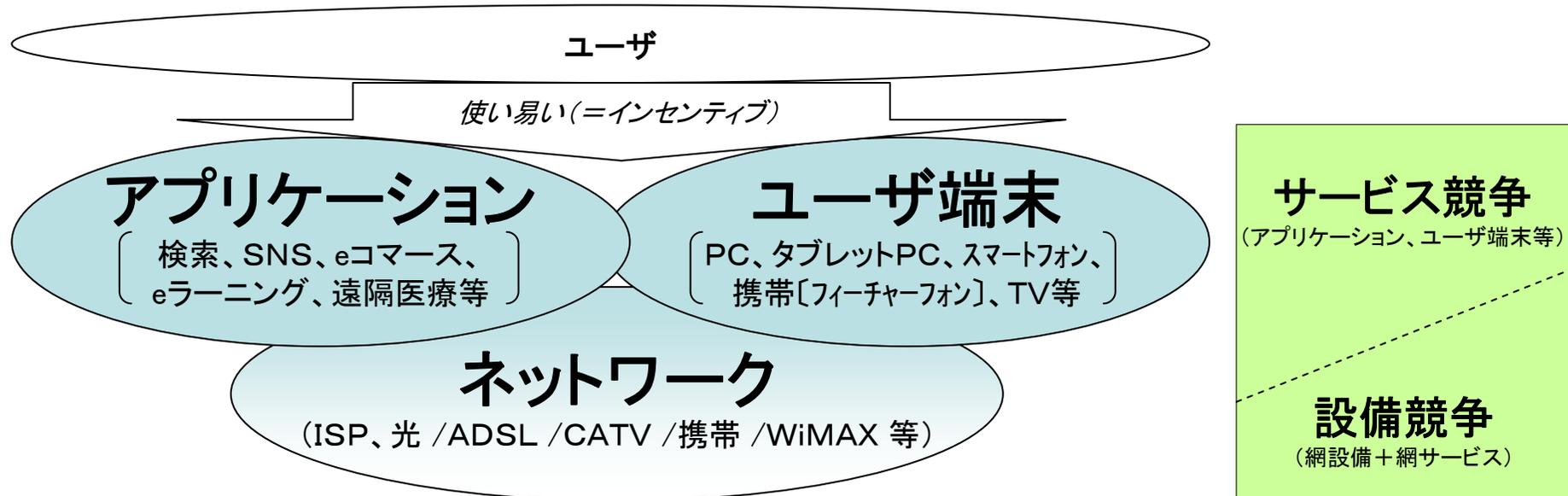
➤NTTとしても、ICT利活用を促進し、ブロードバンド(固定/無線)の普及に積極的に取り組む

■ICT利活用(ブロードバンド)の促進には、使い易い

- ☞ ユーザ端末
- ☞ アプリケーションサービス
- ☞ ネットワークサービス

を、競争を通じて、ユーザに提供していくことが必要

■政府・自治体における電子政府等の推進も必要



世界最高水準のブロードバンド環境が実現・進展

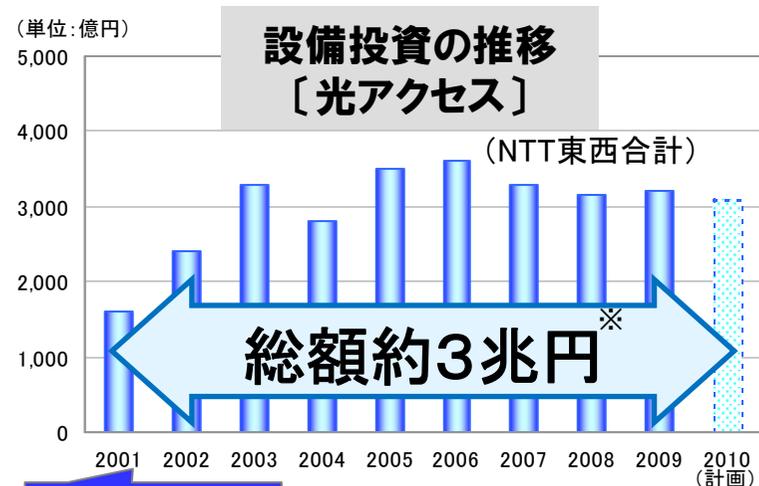
～設備競争により、ユーザニーズに沿った選択が可能～

■固定ブロードバンドは設備競争により世界最高水準

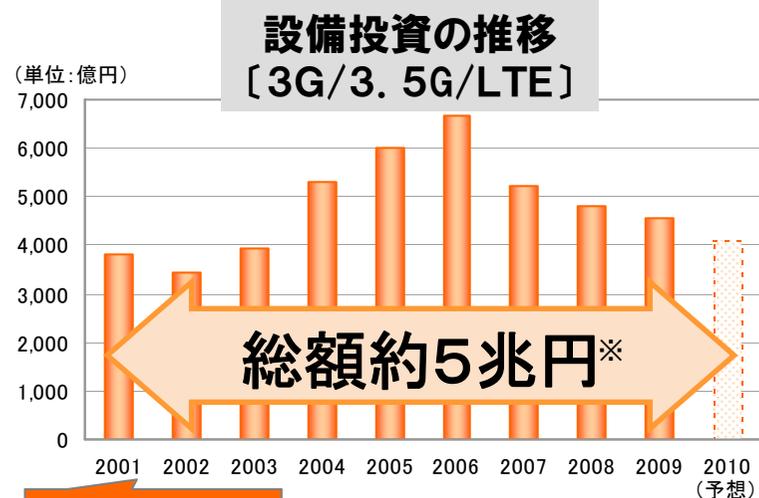
- 光、ADSLとも、
 - ・世帯カバー率・・・世界最高水準
～NTT東西は光アクセスに3兆円を投資
デジタルディバイド対応も着実に進展
 - ・利用率・・・世界最高水準
～光・ADSLユーザ:2,800万
 - ・料金・・・世界で最も低廉な水準
- CATVも拡大
 - ・都市型、地方第三セクタ等、多様
 - ・高速化(30M～160Mbpsが主なサービス)
～CATVユーザ:2,500万、うちブロードバンドユーザ:540万

■無線ブロードバンドも同様に世界最高水準

- 3Gのエリアは全国に拡大済み、利用率も世界最高水準
～NTTドコモは、モバイルブロードバンドに2001年度以降、5兆円を投資
～NTTドコモは、12月に光ファイバ並みの高速通信が可能なLTEサービスを開始



※ 光アクセスのみの設備投資額であり、IPネットワーク (ルータ、サーバ等:2兆円) は含まない



※ 2010年度からLTEの設備投資額を含む

オープン化は世界で最も徹底

■固定系アクセスは世界で最も徹底したオープン化

- メタルは世界で最も低廉な料金※でオープン化 ※ラインシェアリング
- 光は世界に先駆けてオープン化

■固定系コア網もサービスプロバイダにオープン化

○ISP、ASPやコンテンツプロバイダが、NGN／地域IP網に接続してサービス提供
 なお、コア網について具体的なサービス・機能の追加要望があれば、協議することとなっている

			日本	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	韓国
アンバンドル義務	メタル	ドライカップ	あり	あり	あり	あり	あり	あり
		回線共用 (ラインシェアリング)	あり	あり→なし (2003年に撤廃)	あり	あり	あり	あり
	FTTH		あり	あり→なし (2003年に撤廃)	なし	あり→なし (2005年に撤廃)	なし	なし※
	IP網		あり	なし	なし	なし	なし	なし

※ 2004年以降構築する光ケーブルはアンバンドル義務の対象外

■シェアは、ブロードバンド市場全体で判断すべき

○ユーザは固定／無線ブロードバンドをニーズに合わせて選択しており、ブロードバンド市場全体
 (光、ADSL、CATV、携帯、WiMAX等)で考えるべき <技術中立性の視点が重要>

なお、光のNTTシェアは、先行投資と企業努力の結果

(エリア展開、販売促進、コストダウン、研究開発等)

公正競争環境の整備について

■ 民営化以降、接続・行為規制措置が累積

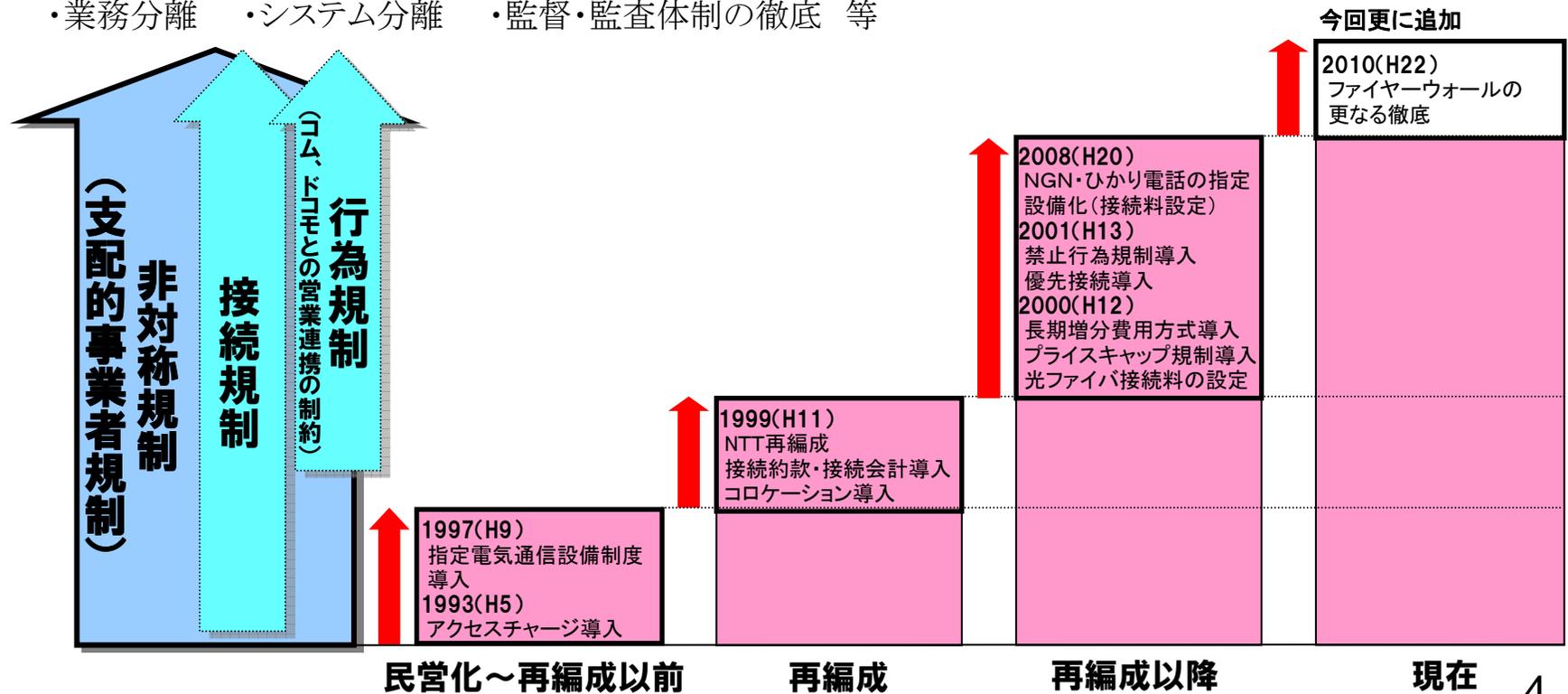
- 指定電気通信設備制度(1997年:接続義務、認可料金〔自社・他社同一料金〕等)
- 電柱・管路等使用に関するガイドライン(2001年)
- 禁止行為規制(2001年:東西とコムやドコモとの柔軟な連携禁止)

■ 再編成 ~ 電話時代の米国型の構造分離の援用

- 東・西・コムに分社(1999年)

■ 今回、更にファイヤーウォールを徹底

- 設備部門と利用部門のファイヤーウォール 等
- ・業務分離 ・システム分離 ・監督・監査体制の徹底 等



NTTは引き続きブロードバンド普及に貢献

- サービス創造・ICT利活用による需要拡大に取り組む
- 研究開発を推進し、コストダウンやサービス性の向上を図る

■コストダウンとエリア拡大

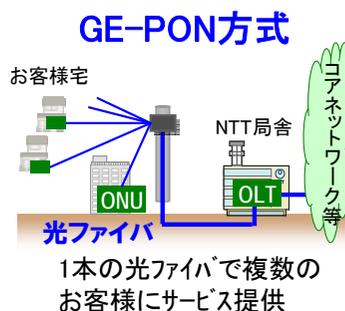
- 素材／工法の改善
- 設備構成の見直し
- 機能の向上、新技術の開発

■サービス性の向上

- 工期の短縮
- 配線方法の改善
- ユーザサポートの充実

研究開発

○これまでの取組み



細径低摩擦 インドア光ケーブル



空きスペースの少ない
既設配管でも光ケーブル
を容易に敷設可能

宅内光配線コード (曲げフリーコード)



折り曲げ可能

○今後の取組み

光(OLT/ONU)の伝送距離の長延化等を研究開発中
(現行7kmを20km超に長延化)

ブロードバンド・IP時代は、電話時代からパラダイムがシフト

○ユーザによるサービス選択(競争)が、

- ・固定ブロードバンドから携帯ブロードバンドへ(ブロードバンドユーザ数:携帯1.2億、固定0.3億)
- ・グローバル市場でのインターネットサービスへ

○NTTも機動的・弾力的にサービス提供出来るよう非対称規制を見直すべき

- ・ユーザの利便性(サービス連携・融合へのワンストップ対応等)
- ・投資インセンティブ 等の視点が必須